

(H22 年 4.13 答申 伊賀市庁舎建設基本構想・計画より抜粋)

## 1 現状分析と課題について

## (1) 南庁舎の現状

現庁舎は、坂倉準三氏の設計によるものですが、建築後 48 年以上が経過しており、建築当時と比べると、市民サービスの質や業務量が大きく変化してきたことにより、ロビーや執務室が手狭になってきています。また、躯体はもとより給排水、衛生、電気設備等の老朽化が進み、維持管理経費も増大しているうえ、近年の情報化対応にも支障をきたしています。更に、平成 17 年度に実施した耐震診断では、南庁舎、北庁舎ともに耐震基準を満たしておらず、大幅な補強が必要と診断されました。

(平成 17 年度耐震診断結果)

南庁舎	桁方向 (X)	梁方向 (Y)
	Is 値	Is 値
3 階	1.07	1.14
2 階	0.32	0.27
1 階	0.88	1.02

建築年月	昭和 39 年 12 月
構造 (延床面積)	鉄筋コンクリート造 3 階建て (5,437.10 m <sup>2</sup> )
総合所見	<p>上表より診断の X、Y 両方向共、2 階が <math>I_{so} &gt; 0.75</math> を満足しない。指標値 <math>I_s</math> を落としている要因としては、吹き抜けによる形状指標の低下及び上下層の剛重比の変化、さらに壁量が少ないことが原因である。</p> <p>ペントハウスは、耐震上の問題は無い。煙突は、地震時に崩壊の恐れがある為、鋼製等に替える必要がある。3 階床及び R 階床を支える南北の片持ち梁は、地震時に崩壊する恐れがある。正面玄関出入口の庇は、地震時に崩壊の恐れがある。当初使っていた消防ホース掛けは、現在無用のため撤去すべきである。大きなガラス面を有するため、ガラスフィルム貼り等の対策が必要である。</p>

## (2) 南庁舎の近代建築としての価値（修正中）

南庁舎は、日本を代表する建築家である坂倉準三の設計によるもので、すでに取り壊された「上野市立西小学校」「上野市立崇廣中学校」や「北庁舎」「中央公民館」と共に、上野城がある城山の南麓に広がる一連の公共建築群として建設されました。これらは水平なヴォリュームを連ね、こんもりとした城山と対比をなして、シティセンターとしてのシンボル性を生み出しており、現在でも他に類を見ない都市景観を創り出しているため、タウンミーティングの場や学会や協会、市民団体からの要望書において、保存活用を求める意見が出されています。

坂倉準三は、世界的に最も著名な近代建築家であるル・コルビュジェに師事し、世界各国に存在するル・コルビュジェの近代建築群は、現在、フランス政府が中心となり日本政府も協力して世界遺産の登録に向けて準備中です。ル・コルビュジェが唯一日本で設計したのが国立西洋美術館本館（東京都）であり、同館は世界遺産候補の1つとして国の重要文化財に指定されており、坂倉準三は同館の共同設計者の一人です。

## (3) 支所の現状と今後

### 【伊賀支所】

古い建物なので倒壊する危険性があります。近隣のふるさと会館いかに支所機能を移して継続させ、古い建物は将来的には取り壊す。

### 【島ヶ原支所】

耐震補強する必要が無いため、現在の建物をそのまま今後も使い支所機能を維持していくことができる。

### 【阿山支所】

建築年度が新しく、まとまった面積を確保できるので耐震補強して本庁が建設されるまでの間、一時的に本庁の一部を移転する。

→平成 22 年度に耐震改修実施済

→平成 22 年度から産業・建設部が先行して阿山支所に移転

長期的には、支所機能を同じ敷地にある阿山保健福祉センターに移して維持していくことが考えられる。

### 【大山田支所】

古い建物なので倒壊する危険性があります。隣接する大山田農村環境改善センターに支所機能を移し、将来的には古い建物は取り壊すことが予想されます。

## 【青山支所】

古い建物なので倒壊の危険性があるため、支所として使い続けるためには、耐震補強をする必要があります。支所と青山公民館は一体となった構造のため、公民館の空きスペースに支所機能に移し、建物の維持管理経費を削減しながら空きスペースとなる現在の支所部分の有効活用を検討していく必要があります。

## (4) 課題

### ①環境の共生、周辺との調和のある庁舎

市の景観条例を遵守し、本市固有の自然、歴史、文化等を生かした個性豊かな伊賀らしい景観まちづくりを市民、事業者及び本市の協働で進め、もって愛着と、誇りを持てる「ふるさと伊賀」の実現に寄与する必要があります。

また、現庁舎を改修する場合は、城下町の風景区域内であるため、城下町の街並みを阻害しないよう配慮する必要があります。また、国史跡上野城への入口のランドマークとしての景観の重要性、隣接する教育施設群（上野西小学校・上野高校（県指定文化財）・崇広中学校・崇廣堂（国指定史跡））と連続する文化景観としての重要性などに配慮しなければなりません。

### ②まちづくりとの整合性

平成22年に策定した伊賀市都市マスタープランでは、都市づくりにおいて、伊賀市の特徴である盆地という自然環境特性や、城下町や各種街道を軸とした歴史資源、さらにはそれらと一体となった都市の姿を継承するとともに、その特徴を活かしたさらなる住み良さを追求するため、市内及び近隣市との多様な連携と交流が形成された持続可能な都市をめざしますこととしています。

また市では、城下町としての中心市街地が都市機能を増進させることが重要と考えられており、中心市街地活性化基本計画や(仮称)芭蕉翁記念館事業計画、また都市計画や景観計画などとの整合性を図る必要があります。

### ③財政負担への配慮

庁舎に必要な規模や機能を具体的に検討するとともに、華美な要素を排除し、ムダを省いたコンパクトでスリムな市庁舎を目指し、建設に必要となる費用の抑制に努めなければならない。

また、改修に関しても耐震改修の手法は日々進化・多様化しており、従来型の機能性を犠牲にしたものや耐震補強部材がそのまま形態となったものから、意匠的にも優れた手法や、既存建築の特性に配慮した複合的利用方法を取り入れることも検討する。